

July 29, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり小反発 FOMC はテーパリング議論が進んでいること示唆**

28日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに小反発。終値は109.91円と前営業日NY終値(109.78円)と比べて13銭程度のドル高水準だった。米連邦準備理事会(FRB)は今日まで開いた米連邦公開市場委員会(FOMC)で市場予想通り政策金利の据え置きを決定した。声明では経済に対する評価をわずかに引き上げ、「ワクチン接種の進展により、経済活動と雇用の指標は引き続き上向いている」と指摘した。一方、「パンデミックによって最も悪影響を受けたセクターは改善を示したが、完全には回復していない」との見解も示した。

また、「米経済が雇用とインフレに関するFRBの目標に向けて前進した」との認識を示したうえで、「委員会は今後の複数回の会合で引き続き進捗状況について評価する」と表明し、テーパリング開始に向けた議論が進んでいることを示唆した。市場は当初ドル買いで反応し、3時過ぎに一時110.28円と日通し高値を更新した。

ただ、パウエルFRB議長がFOMC後の定例記者会見で「労働市場の状況は引き続き改善したが、なお時間がかかる」「テーパリング時期はデータ次第」「利上げには程遠い」などと発言すると、米10年債利回りが低下に転じ、ドル売りが優勢となった。4時前には109.84円付近まで下押しした。

なお、同議長はインフレ加速について「一時的でいずれ落ち着く」との従来認識を繰り返し、「インフレ高進の恐れがある場合、FRBは対抗措置を講ずる」と話した。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1845ドルと前営業日NY終値(1.1817ドル)と比べて0.0028ドル程度のユーロ高水準だった。FOMCでテーパリング開始に向けて「今後複数の会合で経済情勢の進捗を確認する」との見解が示されると、全般ドル買いで反応。3時過ぎに一時1.1773ドルと本日安値を付けた。ただ、パウエルFRB議長が「利上げ検討は程遠い」と強調すると、米長期金利の低下とともにドル売りが優勢に。5時30分前に一時1.1850ドルと本日高値を付けた。

ユーロ円は反発。終値は130.19円と前営業日NY終値(129.72円)と比べて47銭程度のユーロ高水準。欧州株相場の反発や日経平均先物の上昇で、投資家の過度なリスク回避姿勢が和らぐと円売り・ユーロ買いが進行。FOMC公表直後に129.82円付近まで下押ししたものの、そのあとはユーロドルの上昇とともに130.24円の本日高値まで値を上げた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円は実需の動きに挟まれもみ合いか、米上院の法案採決に要注目**

本日の東京時間のドル円はもみ合いとなるか。昨日はパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の会見前後で上下するものの、結局は昨日の東京時間と変わらない水準に戻している。月末や本邦企業の夏季休暇を控えて、上がったなら売り、下がったなら買いという実需や個人投資家のスタンスは当面変わらないと思われる。余程のサプライズが無ければ今週のこれまでのレンジ(109.59円から110.58円)を超えることは難しく、東京時間に限れば昨日のレンジ(109.74円から110.28円)までの間で上下することになるか。

アジア時間はドル円を動意づける経済指標の発表はないが、動意づける可能性があるのは、米インフラ投資法案の採決が早ければ米国28日(日本時間本日午前)に行われることか。バイデン米大統領は「合意を得られたもよう」とも発言していることで、採決の結果次第でドルが動く可能性はありそうだ。

なお、米国入り後には4-6月期米国内総生産(GDP)速報値などが発表される。以前ほどはGDPへの注目が薄れているとはいえ、市場予想(前期比年率+8.0%)と結果にかい離が生じた場合は、為替市場も動きそうだ。

ユーロドルをはじめとした欧州通貨は徐々に下値が切り上がりつつある。ただし、欧州通貨は月末を控えた特殊玉が動きを激しくさせていることもあり、本日も欧州入りまではトレンドを作りにくい。なお、先月は月末前日のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングは、円買いやポンド買いのフローが優勢だった。一方月末はドル買いのフローが中心となり、事前に予想することが難しく出たところ勝負となるだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース、2週分）

## &lt;海外&gt;

○10:00 ◇ 7月NBNZ企業信頼感

○10:30 ◇ 4-6月期豪輸入物価指数（予想：前期比1.0%）

○15:00 ◇ 6月南アフリカマネーサプライM3（予想：前年比2.00%）

○15:45 ◇ 6月仏卸売物価指数（PPI）

○16:30 ◇ 6月スウェーデン失業率

○16:55 ◎ 7月独雇用統計（予想：失業率5.8%／失業者数変化▲2.8万人）

○17:30 ◇ 6月英消費者信用残高（予想：6.0億ポンド）

○17:30 ◇ 6月英マネーサプライM4

○18:00 ◎ 7月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：118.5）

○18:00 ◎ 7月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲4.4）

○18:30 ◇ 6月南アフリカPPI（予想：前月比0.4%／前年比7.3%）

○21:00 ◎ 7月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.5%／前年比3.3%）

○21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：38.0万件／319.6万人）

○21:30 ☆ 4-6月期米国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比年率8.5%）

◎ 4-6月期米個人消費（速報値、予想：前期比年率10.5%）

◎ 4-6月期米コアPCE（速報値、予想：前期比年率5.9%）

○23:00 ◎ 6月米住宅販売保留指数（仮契約住宅販売指数、予想：前月比0.3%／前年比▲3.3%）

○30日 02:00 ◎ 米財務省、7年債入札

30日

## &lt;国内&gt;

○08:30 ◎ 6月完全失業率

○08:30 ◎ 6月有効求人倍率

○08:50 ◎ 6月鉱工業生産速報

○08:50 ◇ 6月商業販売統計速報（小売業販売額）

## &lt;海外&gt;

○07:45 ◎ 6月NZ住宅建設許可件数

○10:30 ◎ 4-6月期豪PPI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

28 日 08:50 日銀金融政策決定会合における主な意見  
(7 月 15-16 日分)

「当面、感染症拡大により経済の下押し圧力が高まるリスクがある。一方、ワクチンの普及が加速すれば、経済活動が想定以上に活発化する可能性もある」

「国際商品市況が上昇する中でも予想インフレ率に大きな変化はなく、『物価安定の目標』の達成には依然として力不足である」

「資源価格の上昇で消費者物価(除く生鮮食品)の前年比も上昇するが、2%の『物価安定の目標』の安定的達成には距離があり、時期尚早に金融を引き締めないことが重要である」

「金融政策の観点から気候変動問題に取り組むに当たっては、経済・物価への影響について、予断を持たずに、政策判断の基盤となる調査・研究の蓄積を進める必要がある」

28 日 16:20 ジョンソン英首相

「8 月 16 日が自己隔離制限解除の予定日」

「自己隔離の制限により、英国の回復ペースに少し問題が生じたため、これが延長された場合に注意する必要がある」

28 日 23:53 米務省

「ジュネーブで開催された米露の戦略的安定対話は専門的かつ実質的だった」

「9 月末に正式な協議をすることでロシアと合意」

29 日 03:00 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明

「FRBはこの厳しい局面で米経済を支援するためにあらゆる手段を行使し、雇用最大化と物価安定という目標を促進することに全力で取り組む」

「ワクチン接種の進展により、経済活動と雇用の指標は強化され続けている」

「パンデミックによって最も悪影響を受けたセクターは改善を示したが、完全には回復していない」

「インフレ率は上昇しており、主に一時的な要因を反映」

「経済および米国の家計や企業への信用の流れを支援するための政策措置を部分的に反映し、全体的な金融状況は引き続き緩慢的だ」

「経済の道筋はウイルスの経過に依存し続けている」

「ワクチン接種の進展により、公衆衛生危機が経済に与える影響は引き続き減少する可能性があるが、経済見通しに対するリスクは残る」

「委員会は雇用最大化と長期的な 2%のインフレ率の達成を目指す」

「インフレ率がこの長期目標を継続的に下回っているため、委員会は当面、2%をやや上回る程度のインフレ率の達成を目指す」

「これによりインフレ率は時間とともに平均で 2%になり、長期的なインフレ期待は 2%にしっかりとどまる」

「これらの結果が達成されるまで、委員会は緩慢的な金融政策の姿勢を維持すると予想する」

「昨年 12 月、委員会は最大雇用と物価安定の目標に向けてさらに著しい進展が見られるまで、FRBは引き続き米国債の保有を少なくとも月 800 億ドル、およびエージェンシーローン担保証券の保有を少なくとも月 400 億ドル増やした」

「経済はこれらの目標に向けて進歩を遂げており、委員会は今後の会合で進展度合いを評価する」

「これらの資産購入は、円滑な市場機能と緩慢的な金融状況の促進を支援し、それによって家計や企業への信用の流れを支援する」

「金融政策の適切な姿勢を評価するに当たり、委員会は今後もたらされる経済見通しに関する情報の意味を引き続き監視する」

「もし委員会の目標の達成を妨げる可能性があるリスクが生じた場合、委員会は金融政策の姿勢を適切に調整する準備がある」

「委員会の評価は、公衆衛生に関連する情報、労働市場の状況、インフレ圧力、インフレ期待、金融と世界の動向を含む幅広い情報を考慮する」

「今回の決定は全会一致」

29 日 03:35 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「ワクチンの進展や財政支援が経済に強力な支援を与えた」

「家計支出は急速なペースで拡大した」

「住宅セクターは引き続き非常に堅調、企業の設備投資は底堅い」

「労働市場の状況は引き続き改善したが、なお時間がかかる」

「インフレ率は著しく上昇」

「今後数カ月は高止まりし、その後鈍化する見通し」

「インフレ率は引き続き長期目標を下回る見通し」

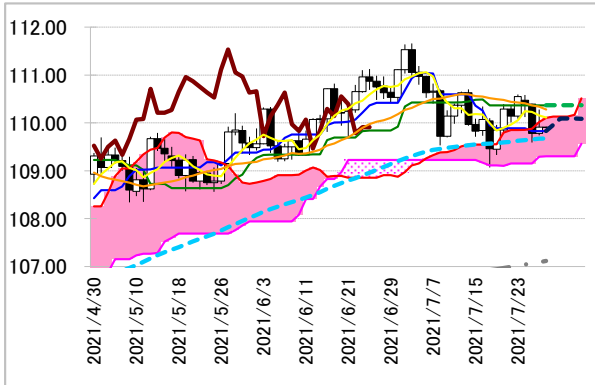
「供給のボトルネックは予想よりも大規模」

「インフレは予想よりも長期化する可能性」

- 「テーパリング時期はデータ次第」
- 「債券購入の調整案を FOMC で精査した」
- 「利上げには程遠い」
- 「新たなレポ制度創設は市場に安全策を提供」
- 「インフレは一時的」
- 「インフレ率は目標を大幅に上回って推移」
- 「短期的なインフレリスクは上サイド」
- 「インフレを極めて注意深く監視している」
- 「テーパリングの時期やペース・構成を巡り、初めて突っ込んだ討議をした」
- 「テーパリングの時期巡り決定しておらず、適切な時期については様々な見方がある」

※時間は日本時間

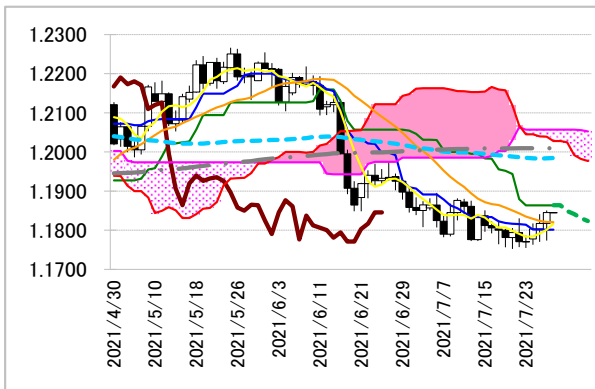
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円＝転換線から雲へサポートのバトンタッチできるか>

上影小陽線引け。上昇中の一目均衡表・雲の上限は強い抵抗にならず、110.28円へ上振れた。しかし21日移動平均線や一目・基準線が控える110.30円台に乗せられず失速。雲の中へ押し戻された。明日にも109.96円、来週には110円台へ上昇する見込みの一目・転換線前後の底堅さを維持し、現在110.10円に位置する雲の上限越えを再び試すか。雲を再度上抜けば、来週にもピークアウトする可能性がある転換線に代わって雲の上限が下支えになりそう。110.28円前後で低下中の21日線や一目・基準線110.37円を再び試す展開が視野に入ってくる。

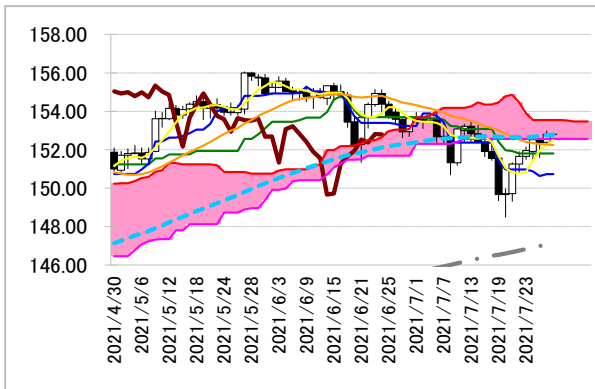
レジスタンス1	110.59(7/23 高値)
前日終値	109.91
サポート1	109.59(7/27 安値)
サポート2	109.07(7/19 安値)



### <ユーロドル＝転換線前後で底堅く、21日線をこなす>

下影小陽線引け。昨日1.1801ドルへ低下したところで目先の底を打った可能性がある一目均衡表・転換線付近で、底堅さを示す下ひげをとともなう陽線形成を続けた。21日移動平均線の抵抗はこなすことができた。ここからは一目・基準線を試す展開。同線は1.1864ドルで横ばいが続いているが、来週から低下角度を強める見込み。基準線前後での動意停滞を想定するが、一気に上抜けなくとも、サポートとなる転換線を上回る水準を維持しつつ、日柄経過を味方に基準線をこなすことが期待できる

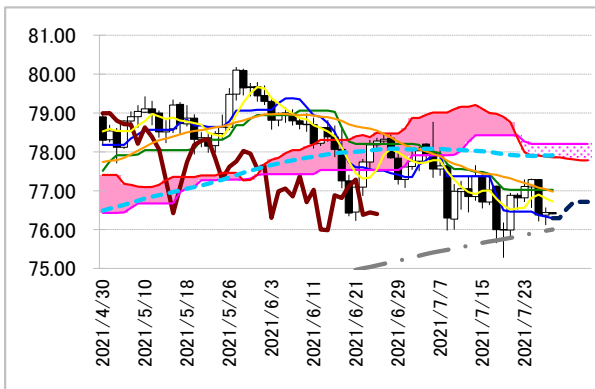
レジスタンス1	1.1881(7/9 高値)
前日終値	1.1845
サポート1	1.1801(日足一目均衡表・転換線)



### <ポンド円＝じり高の90日線の動きに乗って上値伸ばすか>

陽線引け。14日以来、2週間ぶりに153円台を回復した。いったん押し返された一目均衡表・雲の下限152.57円の抵抗をこなした。152.79円前後でじり高の90日移動平均線の動きに乗って上値を伸ばすことになりそう。目先の上値の節目13日高値153.49円や一目均衡表・雲の上限153.55円を試すことになるか。

レジスタンス1	153.49((7/13 高値)
前日終値	152.81
サポート1	152.19(7/28 安値)



### <NZドル円＝200日線手前で下げ渋り、転換線を回復>

小陽線引け。76円付近で上昇中の200日移動平均線手前で下げ渋り、一目均衡表・転換線を回復した。転換線は本日76.29円へ小幅に低下したところで底打ちし、いったん上昇へ向かう見込み。同線とともに戻りを試す展開を予想する。

レジスタンス1	77.02(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	76.44
サポート1	76.00(200日移動平均線)

